

「さっぱり、分からん」発言への対応

～誰一人として一人ぼっちにさせない授業を目指して～

1 はじめに

中学校の理科の授業に入っていた時のことです。唾液の実験で、実験結果から分かることを考え、結論を導き出すという授業が展開されていました。実験結果から分かることを個人で考え、全体交流を終え、教師が改めて、その内容を確認しました。考察に入る前に教師が「困っている人はいませんか？」と問いかけたところ、挙手があり、「さっぱり、分からない」と発言しました。いろいろ尋ねたのですが、頭の中が混とんとしているようでした。結果として、T2で入っている私が指導しましたが、改めて、どう対応すべきだったかを検討しました。

2 「さっぱり、分からん」発言への対応

(1) 基本的な考え方

「困っている人はいませんか？」の言葉がけに生徒が挙手した場合は、それを全体で取り上げて、その生徒の困り感を解決しながら、本時の課題解決や本時の目標に迫るとするのが基本であると考えています。

今回の場合は、さっぱり分からないという発言から、どこまで分かっているかなどと、つまづいている所を確認したのですが、それができませんでした。結果として、T2の私が個人的に指導してしまいました。せっかく、「困り感」を発表したのに、それを活かすことができなかつたのです。

はやり、個別の指導ではなく、全体で困り感を共有して、解決すべきでした。

(2) 本時の授業の場合

振り返ってみると、“さっぱり分からない”、“どこまで分かっている、どこから分からないかも、分からない”という状況であるなら、スタートから戻るべきではないかなと考えました。

① 何を調べるために、本実験をしているのかを確認する。

→ 「だ液がでんぷんを分解することを確認する」

② 実験方法の確認をする。

→ ヨウ素反応があれば、でんぷんがある。ヨウ素反応がなければ、でんぷんはない。

→ ベネジクト反応があれば、糖類がある。ベネジクト反応がなければ、糖類はない。

③ 実験結果を確認する

→ でんぷんに だ液を加えた。ヨウ素反応なし。ベネジクト反応あり。

→ でんぷんに 水を加えた。ヨウ素反応あり。ベネジクト反応なし。

④ 結論を考える

ここまで確認できれば、結論が導き出せるのではないだろうか。

(3) 彼はどこでつまづいていたのか

振り返ってみると、実験の目的が落ちていなかったのではないだろうか。実験方法を知り、実験を行った。結果も分かった。しかし、実験の目的が理解できていなかったので、「え？ 何が分かったか？ さっぱり分からん。」となったのではないだろうか。

3 おわりに

「さっぱり分からん」という発言に、具体的にどう対応すべきかを、とっさに判断できなかったことから、個別に指導することになってしまったのだろう。

「さっぱり分からん」といった発言のときは、原点・スタート地点に戻ること、「本時のねらい、活動のねらい、実験のねらいは何であったか」「何のためにやっているのか」を振り返らせることが、必要ではないだろうか。

次回、「さっぱり分からん」という発言の場合には、これで対応してみようと考えます。